時事新報定價
時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日并ニ大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして抑方に郵送する分は此外ニ貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

志士且つ切迫する事を休めよ

國會の開期も既ニ目前に迫りて所謂政黨員を始め各地方の有志家は何れも夫々議員撰擧の用意に忙はしき由なれば本年の政黨は非常の度に達せんみと今より嫌め思ひやらるゝ所なり抑も代議政體の下には人民に政治思想の發達最も肝要ニして假令へ國會開けて議員撰擧の事あるも人民たる者が毫も其利害を感ずるみとなくして冷眼みれを看過するやうにては折角の政體も其功を見る可らず左れば當世の人々が國會の事に關心し撰擧の事に奔走するは即ち政治思想の盛なる兆候にして寧ろ喜ぶ可きの事相と云はざる可らず且つ既に代議の制を始むる以上は政黨の相分るゝは人事自然の勢にして黨派の既に相分るゝ以上は其間に爭を見る可きは是れ又勢の免れざる所にして毫も怪しむに足らず代議の政體既に其習慣を成したる西洋諸國に於てさへ政黨の爭は時として常經を外れて極端ニ奔るみともなきにあらず況して百事草創の日本社會に此事あるは敢て怪らしからぬ譬にして若しも本年の初舞臺ニ奇相を現ずるみともあらば我輩は答を何人にも歸せず唯不慎の罪として之を看過せんと欲すれども尚は世間の有志者に向て聊か一言を呈するは外ならず熟らゝ日本社會の風習を察するに封建制度の餘弊、只管政治を重大視して他に國事なきが如く慨憂國みれを志士の本分と稱して亦疑ふものなし而して其國事なるものは如何なる事柄なりやと云ふに時の政治の得失又は政治當局者の進退などの類にして今日我輩の眼より見るときは國事中の一小部分ニ過ぎざれども志士の心中みれを重んずるみと甚ざしく時としては生命財產をも顧みざるものなきにあらず蓋し封建の昔日に在りては政治は即ち國事にして施政の事も護國の事も明白なる區別なきより只管政治を重大視して之に熱したるみとならんなれども今の立國の有樣に於ては政治必ずしも唯一の國事ならず商賣なり殖產なり教育なり技術なり國の要素は種々にして政治の外にも猶ほ重大なる諸般の國事あるのみならず目下の事情より見れば却て政治よりも必要なるもの少からざれば志士たるものは寧ろ力を茲に盡さゝる可らざる筈なるに事の實際は則ち然らず顧ふに今の政治の事に熱心奔走する人々は何れも有爲活潑の士あらざるはなく隨て其氣風の社會に影響する事も少ならざれば時としては必至に盡力す可き場合もあらんなれども今日の所謂國事は必ずしも危急變態のものにあらず唯文明政治の洗義に隨ひ代議の制度を行はんとするまでの事ニして其事たる敢て重要あらざるにはあらざれども安れば之とて全國の人民が社會一切の人事を打捨て生命財產を賭して爭ふ可き程の急變にもあらず寧ろ習慣に事を謀りて穩に其始末を見るみそ國家の幸にして國民の義務にみそあれば世の志士たるものは眼前の事ニ切迫せず且つ其眼界を濶大にして審に社會の事情を察し徐ろに國の長計を謀るの覺悟專一なる可し我輩は嘆め本年政治界の多事を期し如何なる事相に遭遇するも敢て驚くみとあかるる可しと雖も唯彼の政治を以て唯一の國事となし之に奔走するを以て彌國の本分と心得るに至りては其氣風の一般社會に影響する所少なからざれば國の長計の爲めニ聊か世間の志士に一言するものなり

官報

〇內務省告示第二號
明治十八年(二月)第六號告示國道表第七號中路線變換ニ付下諏訪、鹽尻間ニ平野ヲ插入ス
明治廿三年一月廿三日　內務大臣伯爵山縣有朋
〇隨賣
明治二十二年法律第六號附則第一項ニ依リ調製シタル縣會議員撰擧人名原簿及人名簿ニ就キ法律規定ノ時期ニ於テ訂正ノ順序ヲ履行セサリシ段不都合ニ付隨賣ス
（一月二十二日內務省）

雜報

〇電氣燈の進步　東京電燈會社が始めてエヂソン電燈を我邦ニ導き先づ一機に架設したるは去る明治十九年春官報局印刷所を始めとして陸軍士官學校之ニ次ぎて同種の電燈を點火するみとゝ坂紡績會社亦之に次ぎて同種の電燈を點火するみとゝ爲り實驗先づ人々の疑を晴らし續て之れに信用を措くの場合に進み東京電燈會社は麹町第一電燈局を開きなれども今日電燈擧燭の現況如何んを知るに足る可し倘は幸で第二第三電燈局を開設し宮城內一圓ニ之を架設するみとゝ爲りしは大に該業の進步を促し大坂京都名古屋、神戸の各都會に於ても各電燈會社の開設あるに至り之より流行の徹始めて顧はれ來りて各地紡績會社等の諸工場は互に競ふて之を點火する一方には東京帝國電燈會社の創設もありと云ふ東京外に於ては又之と前後して北海道電燈會社、鎮館電燈會社、長野電燈會社、鹿本電燈會社、長崎電燈會社、横濱電燈會社及博多電燈會社、廣嶋電燈會社等既に創設の許可を得たり尚は此他に計畫中なるものは金澤大津、水戸、仙臺等なり此順序にて進むときは將來我電氣燈事業は驚くべき進步を爲すの景氣あるが如し今茲に現在點火の燈數及追々架設の運びに至らんとする燈數の概略を聞くが儘記さんに

現在點火數
一萬二千八百燈

現在準備數
七千五百燈

東京電燈會社
此內譯
第一電燈局　六千二百燈
第二電燈局　二千二百燈
第三電燈局　二千二百燈
第五電燈局　二千二百燈
京都電燈會社　二千二百燈
神戸電燈會社　二千二百燈
大坂電燈會社　三千五百燈
名古屋電燈會社　千六百燈
合計　二萬二千三百燈

四千燈
六百燈
千六百燈
千三百燈
九百燈
千燈
九百燈
七百燈
一萬千燈

此他又既に會社創設の許可を得たるものを擧れば即ち左の如し

長野電燈會社　千燈
鶴本電燈會社　千燈
長崎電燈會社　千燈
博多電燈會社　千燈
橫濱電燈會社　千燈
廣嶋電燈會社　千燈
千五百燈
千二百燈

靜岡電燈會社　千五百燈
北海道電燈會社　二千六百燈
函館電燈會社　千燈
新潟電燈會社　千五百燈
合計　一萬六千八百燈　出願中

右の外諸工場其他にて現在點火せる部分を擧れば即ち左の如し

岩崎氏深川別莊　百五十燈
鍾ヶ淵紡績會社　四百燈
東京紡績會社　二百五十燈
帝國大學　五百燈
綿絲紡績會社　百五十燈
士官學校　三百三十燈
官報局　百三十燈
遞信省　百五十燈
第一高等中學校　六百燈　準備中
王子毛絲紡績會社　千百二十燈
大坂紡績會社　千百燈
纖布會社　三百燈
天滿紡績會社　四百燈
泉尋紡績會社　二百二十燈
綿絲紡績會社　二百二十燈
堂嶋紡績會社　百三十燈
絹絲織物會社　三百五十燈
八幡紡績會社　七十五燈
麻絲紡績會社　百燈
名古屋紡績會社　二百燈　準備中
尾張紡績會社　三百燈
三河紡績會社　四百燈
江田嶋紡績會社　三十燈
岡山紡績會社　三百燈
玉嶋紡績會社　百三十燈
仙臺紡績會社　百三十燈
和歌山紡績會社　四十燈
下野紡績會社　百六十燈
北海道製麻會社　七十五燈
合計　四百燈
七千六百五十燈

目下殷煥電燈の準備及現在點火數の概算右に列擧する通りなれども固より精確の取調にあらざれば或は之に漏れたる部分もあるべく或は多少の相違もあるべきかなれども今日電燈擧燭の現況如何んを知るに足る可し此他弓燈（千二百燭光）を點火せるは砲兵工廠千住製絨所續須賀造船所招魂社及宮城等にて其數百八十燈に下らざるべしと云ふ

〇東西美術品の比較　昨年の巴里萬國大博覽會中殊ニ我日本よりの出品類に關しては其毀譽相半ばせるも獨り美術品の一部に至りては巴里全部の取沙汰とあり從て各國の新聞紙上に至る迄今や我日本の國名は美術と共ニ世界に知れ渡れる事とはなれり抑も我國の美術がその繪畫と彫刻とを問はず斯く迄世界の評判を博せしものは全くその彩色の優麗逸美なる事は申すに及ばず一片の落葉、一雫の頑石も皆其自然の風韻を存して一線一畫の微細に至るまで能く天然の位置と配合とを保ち迚も外人の模擬する能はざる獨殊の絕技を有するにありと云ふ我國の美術品が斯る特色を有するものは全く他の東洋諸國と同じく近年迄、常に鎖國の主義を維持せしが爲め從て外國の文物に風化せらるゝの割合極めて少なく別て內國の美術家は能く隣日月の別乾坤に獨立せし等、幾歲月の昔より其の技術の神髓は子孫相傳へて研究せし結果遂に此に至りしものなるべし然るに歐米の美術品に至りては稍近大に長足の進步をなせしには相違なきも何分箇々獨立の意匠に乏しく常に千篇一律の憾ある事あるがゝは全く文明の結果ニして彼の歐米に於ける交通の自由なるは一轉して智識藝術の傳播を速め一國一人の進步發明は忽ち四隣の模擬する所とあると共ニ流行ニ奔るの結果は自づと世評の如何をのみ顧みる事となり折角の意匠も往々世の毀譽を恐るゝが爲めに中途ニして自棄する事となり迚も絕代の妙案を凝して一機軸を出す事などは先づ以て自然と遠ざかる等扨て人の見聞する所にては見苦しき品物も手を生せざる事ニ成たり

〇名古屋市の自治團體　五萬餘、戶數殆ど五萬餘、今其市制實施前ニ當り市會議員撰擧し來りたれば是れ亦多年岐阜縣に在勤せし程なれども氏は中村氏とは宜しかるべし市長花井八郎左衛門氏も同地の豪商にして再興自由黨員小野氏又助役中川靜氏も亦多年岐阜縣に在勤せし程なれども氏は中村氏とは宜しかるべし市長花井八郎左衛門、日井丈右衛門、山田平左衛門、鈴木善六、岡谷半十郎、長尾保吉、伊藤久江重兵衛、中村與七、鈴木善方、安藤定助たりし吉川義三郎氏なるが而して市會議員は悉く自由黨員にして中談話會員堀部隆、小兵衛、笹田傳左衛門、中村與八氏は未だ何れの政黨に屬せざるも中談話會員堀部隆、藤谷良平氏なるが中談話會員二十一名の內立倶樂部員一名の外は悉く自由黨員にして又其の職業に依れば士族二名、農業二名、商業二十一名、合計二十四名ニして其の內名古屋市會の組織なれば其實職を見るに